

○12番（齊藤政雄君） 12番，齊藤です。通告に従って，染谷川について質問いたします。

染谷川は，昭和49年，事業認可を受け，50年から国補事業によって河川敷の用地取得を行ってきました。当時を振り返ってみますと，ちょうど境町合併20周年と。そして，橋本正士町長が2期目ということで，これからのまちづくりというものを，こういったものがちょうど50年の3月に町勢要覧として町民に配ってあります。その中のこれからのまちづくりというものを読んでみますと，境町はここ二，三年，近代都市を目指し，変身を遂げています。昭和47年7月に発足した財団法人境町開発公社によって，42ヘクタールの下小橋工業団地，わずか1年たらずの間に完成を見ました。この工業団地開発の成功が境町のその後の着実な発展に大きな景気をもたらしています。町政運営の最大の壁は，財政の貧弱さにありました。自主財源が3割前後では，山積みする事業や要望に対して何もできないのが実情です。工業団地開発により，メリットが単に財源の確保により生活環境施設や社会福祉施設や教育施設の整備ばかりでなく，町内の人々に優良な職場を提供し，人口増加に一つの転機を与え，経済活動の活発な発展に波及すると幅広い影響を与えてきました。この当時を見ますと，昭和49年の境町の人口は2万3,698人だそうです。そして，当初予算は18億5,000万としてあります。

染谷川については，昭和，平成，令和と多くの議員さん，そして須藤議員，木村議員，相良議員，櫻井議員と一般質問をしてきております。私が当時の質問を一部読んでみますと，染谷川の改修工事は一向に進まず，染谷川周辺の汚水問題はますますエスカレートしている。そういった中で，長田地区の開発が進んでおり，ビハ砂地区でも公社の手で埋立てされ，それによって下流はますます雑排水が増えると，こういった形，染谷川はどなのだという形で質問している中で，執行部の回答は，染谷川の改修工事は50年度から継続事業で行っており，古河岩井線の北側から下妻県道までの延長1,852メートルで，50年までの事業費は2,100万円。また，水量の問題も書いてあります。そういった中で，先月，全員協議会の席で執行部のほうから染谷川改修計画の変遷というものが出されました。染谷川がどういう計画になってくるのかを質問いたします。

そして，染谷川イコール，いわゆる染谷川の西側は下小橋地区の地権者，東側は染谷地区の地権者という形の中で，下小橋においては平成元年，下小橋水田遊水対策組合というものができ，今年で32年を迎えております。この水田遊水対策組合が染谷川改修工事計画の変遷とともにどうなるかも質問いたします。

第1回目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） 答弁を求めます。

建設農政部長。

〔建設農政部長 中川一郎君登壇〕

○建設農政部長（中川一郎君） 改めまして，おはようございます。齊藤議員の1項目め，染谷川についての1点目，染谷川の改修事業は，昭和49年に事業認可を受け，昭和50年から国補事業として実施し，河川敷の用地取得等を行ってきたが，改修計画の変遷についてとの

ご質問にお答えをいたします。

染谷川は、昭和49年3月に準用河川に指定され、昭和50年6月に国から事業認可を取得し、その後2回の変更を行い、平成3年4月に下小橋から上小橋五差路の町道1—23号線までの区間、延長2,970メートルを整備区間とし、本格的な改修事業に着手いたしました。現在の整備状況ではありますが、下流から改修工事を進めており、令和2年3月現在の整備率は、延長1,627メートルが整備完了し、約54.8%となっており、現在下小橋地内の河道拡幅及び陽光台南の町道1—10号線架け替えのための切り直し道路工事を実施しているところであります。

染谷川の改修計画につきましては、昨年度から周辺の冠水対策を実現するため、現況の流下能力や冠水被害の要因を調査検討し、河川改修による効果と上小橋五差路上流に調整池を設置した場合の効果をそれぞれ検証いたしました。検証の結果、調整池を設置する場合は、2か所で総量約2万2,000トン进行貯留することで一定の効果が期待できることとなりましたが、概算事業費で約9.8億円の費用がかかる結果となりました。一方、上小橋五差路から上流部も含めて染谷川の全体の河川改修を促進した場合、同様の効果が期待でき、概算事業費は約7億円の費用であるとの結果となりました。町といたしましては、調整池設置に係る費用を河川改修費に充当し、集中的な整備を進めることで大幅に改修が促進され、冠水被害の軽減が図れるものと考えております。

なお、整備費用の財源につきましては、国の社会資本整備総合交付金や防災安全交付金を活用し、4割の国費を投入する予定でおります。

以上の対策を実施することで、1時間当たり38.6ミリの豪雨に対応できることとなり、染谷川周辺の冠水被害は大幅に軽減されると考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

続きまして、斉藤議員の1項目め、染谷川についての2点目、下小橋水田遊水対策組合及び染谷地区地権者についてとのご質問にお答えをいたします。染谷川につきましては、下流から順次改修事業を進めており、現在下小橋地内の工事を実施しているところであります。整備に当たりましては、下小橋水田遊水対策組合及び染谷地区の地権者の皆様のご協力により順調に進捗しているところであります。河川改修事業が完了していない現状において、下小橋の水田については豪雨時における遊水地の役割を果たしてきているところであります。1点目の答弁で述べたとおり、今後河川改修事業の整備促進を図り、一日も早い完成を目指してまいります。完成するまでは下小橋水田遊水対策組合及び染谷地区地権者の皆様には下流域の冠水被害軽減のため引き続きご協力をいただきたいと思いますと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

斉藤政雄君。

○12番（斉藤政雄君） 私もちょうど、先ほど言いましたように、50年に議員になっております。ですから、45年、来年で6年という形になりますけれども、染谷川、染谷川とやって

きた一人の人間でありますけれども、下小橋の工業団地前までが、染谷川はどこにあるのですかという時代を、今はそういった状況ではないので何とも言えませんけれども、取りあえず染谷川という1級河川を前の橋本町長は、旭化成ができ、そして下小橋工業団地ができ、やはり今みたいに公共下水道ではありませんので、川にそういったものを流すしかないだろうと計画したのが染谷川の1級河川ではなかろうかという形でやってきましたので、これからは先ほどの部長の回答どおりという形でよろしく、下小橋の人たちも長年だろうし、また上流の人たちも圏央道ができ、やはり上に水がたまってきて、また大変だなという時代になってしまっは大変ですから、早めにいろんなあれを取っていただきまして、染谷川の完成を一日でも早くしてもらえるよう希望して、終わります。

○議長（倉持 功君） これで斉藤政雄君の一般質問を終わります。